

学習に困難をかかえるJSL高校生への支援の記録

—スモールステップと対話を通じた意欲の向上—

NPO法人 Gコミュニティー

長谷川浩

子どもの日本語教育研究会 第10回大会 2025年3月8日(土)

1 実践の場の特徴①

- X県

大都市圏近郊 →地方としては在留外国人比率高い

外国人の受入体制弱い

- X県立Y高校

地方中核都市の隣町の小規模県立高校(1学年2クラス)

1割が外国につながる生徒

→ 支援はAのみ、支援と教科の連携なし

1 実践の場の特徴②

・生徒A

2018年フィリピンより家族(父・母・兄・弟)で来日、小6に編入

家庭内言語はタガログ語

本人の第一言語は英語

2022年4月Y高校に進学

→ 成績が振るわず、授業での受け答えが弱い

→ 2年進級前に学校からNPOを通じて、筆者に支援の依頼

2.1 支援開始前①

・学校より

成績の状況

学年 位

知能検査(WAIS-VI)実施

特別支援アドバイザー→ワーキングメモリー・知覚推理に指摘

・本人より

困っていること → 漢字が読めない、意味が分からない

・筆者の経験 ……別の生徒の指導から

高校において漢字が読めないことの困難の大きさ

2.1 支援開始前②

- 支援の形式

通級による特別支援(言語障害)

週1回(金曜日)放課後、約1時間

1対1で日本語・学習支援 ←内容は支援者に一任

- 支援者の方針＝本人の状況(＝漢字や日本語の理解)をみながら、言葉や学習を含めた学校生活全般を含めて支援する

- 2023年4月～支援の開始

生徒の立場にたって、困っていることを支援する

2.2 漢字

・漢字学習

学校の漢字教科書 → 機械的に書写、理解していない¹²

市販(小学生用)漢字練習帳を併用³

→1文字ずつ字形・意味を確認、数文字ずつ書き方チェック

→発音/字形/意味を合わせて理解しようとする⁴⁵⁶⁷

・小さなステップでの成功 → 意欲と自信の向上

2.3 文法理解と読解①

- 特別支援教材(小学生用)などで学習8
- 基本的文法事項の理解(の確認とその向上)
 - 基本的文法事項が定着していない9
 - 徐々に理解が向上10

2.3 文法理解と読解②

- 読解問題

- 漢字が読めず理解できないために、解答できない。

- 読みと意味理解を(英語で)補助すると、解答できた11

- 漢字の読みと語彙理解ができれば、内容理解に問題なし

2.4 学習(授業内容)支援①

- 学習(試験対策プリント)支援

本人にとって英語がもっとも理解しやすいことが判明

複言語(日本語・英語)を使って、試験対策プリントの学習を補助

→(プリントを拡大コピーし)語句を英訳し、欄外に記入¹²

2.4 学習(授業内容)支援②

- 内容の理解がすすむ

→ 学習への意欲が向上

- 成績の一定の向上

→ 学習(授業内容)支援の希望強まる

歴史のテストについて聞いた。「35点ならいいじゃない」と言うと、「悔しいです」と言う。「歴史は1年のときは5点とかじゃなかった？」と言うと「そうですが、悔しいです」と言う。(支援記録2024.7.5)

何を勉強したいか聞くと、「まだ早いですが試験の勉強をしたいので」と言いながら、地理総合のプリントを出してきた(支援記録2024.10.18)

2.5 会話

- 支援者との複言語の会話

- 関係性が深まり、勉強以外(特に友人関係)の話題が増加

- 内面を伝えることの実感

支援後の雑談で「長谷川先生だから言ってもいい」と言って、「僕も好きな人います」と言ってきた(支援記録2023.10.20)

- 日本語会話への積極性が向上

「他にニュースはありますか」と聞くと、次々と「恋ばな」を始めた。・・・日本語表現のおかしな部分もあったが・・・私もできるだけ本人の行動を評価し、本人の表現を促す方向で話し続けた。そして今までにないほど、長時間(約30分)かつ積極的な発話が続いた(支援記録2024.5.17)

「1年の頃は理解はできるが発話あまりできなかった。今は大体(言いたいことを)話せる。」(インタビューでの本人の発言2024.12.13)

2.6 学校生活

- ・勉強への自信と意欲・成績の向上、会話への意欲
- ・学校生活全般での積極性の向上

→ クラス内や友人関係での積極性

→ 部活での意欲的な活動

唯一の3年生だが、最後まで頑張っている。発表前は「ダメです」を繰り返していたが、本番では落ち着いて演奏していた。ここでの経験も本人が自信をつけるきっかけになったのではないか。(懇談会での軽音部顧問の発言2024.1.10)

以前に比べて、積極性が増して友達ともよく話すようになっています。色々な仕事を引き受けてくれるし、部活(軽音部)も一生懸命で、文化祭でしっかり演奏しました。(懇談会での担任の発言2024.7.12)

1年生の頃は発話自体が少なく、2年生までは外国系のグループに入ってそこで話していた。2年後半からクラスの誰とも話すようになり、今では(日直を差し置いて)クラスに号令をかけるようになっている。(懇談会での担任の発言2024.1.10)

3. 結果と考察①

- 当初の状況

学校：学習困難の認識←認知面での問題の可能性

本人：漢字を読めない、理解できない→自信の喪失

- 支援の方向性＝状況の確認と本人目線からの対応

学習段階を遡る(小学生向け・特別支援教材)

スモールステップでの学習(1文字ずつ解説・数文字ずつチェック)

3. 結果と考察②

- 自信と積極性の向上

小さな成功の積み重ね → 自信と意欲の回復

二言語による学習・会話 → 内容理解の促進・内面の表現

- 学習や学校生活全般への積極性の向上

→(日本人を含む)多く生徒との関係性向上

→クラス・部活などでの積極性

3. 結果と考察③

- ・限られた日本語能力

 - 現在も複雑な構文の理解や発話はむずかしい

- ・授業や学校生活における困難は続いている

 - 筆者のバンドスケールによる見立ての変化

	聞く	話す	読む	書く
2023年7月	4	3～4	3	2～3
2024年7月	4	4	4	3～4
2024年12月	4～5	4～5	4	4

3. 結果と考察④

- 小中学校と高校のちがい

義務教育ではない、入試の存在、「学習→単位認定」の原則

- 「生徒の状況に合わせた学習」という視点を取りづらい
- 一方で、高校全入状況・外国につながる生徒の進学率向上
- その中で、この実践は・・・
 - 学習過程の遡り、スモールステップによる自信・意欲の回復
 - (複言語等による)多様なリテラシーの保障による積極性向上

ご清聴、ありがとうございました。